

J P 日米バランスファンド

<愛称：J P 日米>

追加型投信／内外／資産複合

交付運用報告書

第2期(決算日2017年8月15日)

作成対象期間(2017年2月16日～2017年8月15日)

第2期末(2017年8月15日)	
基準価額	10,033円
純資産総額	3,223百万円
第2期	
騰落率	2.2%
分配金(税込み)合計	30円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)はJP投信のホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記ホームページを開く

⇒「ファンド情報」を選択

⇒「ファンド名」を選択

⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、このたび上記の決算を行いました。

当ファンドは、日本と米国の債券と株式に資産を分散することで、安定的な収益の確保と信託財産の着実な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用状況についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

JP投信株式会社

東京都中央区日本橋本町一丁目5番11号

<照会先>

ホームページ：http://www.jp-toushin.japanpost.jp

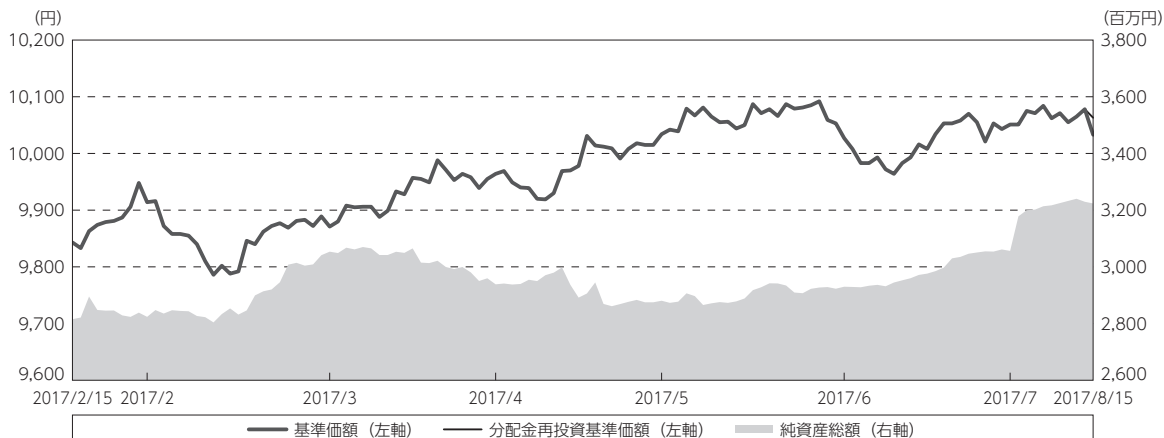
サポートダイヤル：0120-104-017

(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2017年2月16日～2017年8月15日)



期首：9,843円

期末：10,033円 (既払分配金(税込み)：30円)

騰落率：2.2% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2017年2月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首9,843円から当期末10,033円となりました。なお、当期末には1万口当たり30円の分配金をお支払いしましたので、分配金を考慮した値上がり額は220円となりました。

投資対象とする3本の組入投資信託証券の当期間の値動きは、日米債券、日本株式、米国株式全てが上昇しました。これらの上昇が主な値上がり要因となりました。

1 万口当たりの費用明細

(2017年2月16日～2017年8月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	22	0.225	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(10)	(0.096)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(11)	(0.112)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.002	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	22	0.227	
期中の平均基準価額は、9,976円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2012年8月15日～2017年8月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2016年10月27日です。

	2016年10月27日 設定日	2017年8月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,033
期間分配金合計(税込み) (円)	—	50
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	0.8
純資産総額 (百万円)	1	3,223

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

投資環境

(2017年2月16日～2017年8月15日)

日本債券市場	2017年2月中旬、10年国債利回りは0.10%近辺にありましたが、日銀が残存期間の長い国債の利回り上昇を抑える姿勢を示したことや米国金利の低下を受け、利回りは低下(価格は上昇)しました。3月には、米国の利上げペースが加速するとの懸念を背景に米国金利が上昇したことから、日本債券も利回りが上昇(価格は下落)しましたが、その後、これらの懸念が後退すると、利回りは低下(価格は上昇)しました。4月に入り、シリアや北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりに加え、フランス大統領選などを巡る欧州政治リスクへの警戒感を背景に、利回りは大きく低下(価格は上昇)しました。これらのリスクが後退し、利回りが反発した後は概ね横ばいの推移でしたが、6月下旬から7月初旬にかけて、ECB(欧州中央銀行)の金融緩和縮小観測の強まりを背景に欧米金利が上昇したことを受けて、利回りは上昇(価格は下落)しました。その後、日銀が、あらかじめ指定した利回りで無制限に国債を買い入れる「指し値オペ」などを通じて、金利上昇を牽制したことなどから利回りは低下(価格は上昇)し、8月中旬には、北朝鮮情勢の悪化などを受けて、さらに利回りは低下(価格は上昇)しました。
米国債券市場	2017年2月から3月にかけて、FRB(米連邦準備制度理事会)による利上げペースに関する見通しが定まらず利回りは上昇と低下を繰り返す一進一退の展開が続きました。4月には、シリアや北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりを背景に、利回りは低下(価格は上昇)しましたが、その後、これらのリスクが後退すると、投資家のリスク選好機運が高まり、利回りは上昇(価格は下落)しました。5月に入ると、トランプ政権のロシア関連疑惑などを背景に政治リスクが意識されたことや、インフレ率の低下などを背景にFRBによる先行きの利上げペースが緩やかになるとの見方が広がったことから、利回りは低下(価格は上昇)しました。6月下旬から7月初旬にかけて、ECBやBOE(イングランド銀行)の金融緩和の縮小観測を背景に、利回りは上昇(価格は下落)に転じました。その後、イエレンFRB議長が議会証言で利上げに対して慎重な見方を示したことなどから利回りは低下(価格は上昇)基調での推移となりました。
日本株式市場	2017年2月から3月中旬にかけて、FRBによる追加利上げ観測を背景に、一時円安・ドル高が進行したことなどが好感されて、日本株式市場は堅調に推移しましたが、その後は、米国景気に対する楽観的な見通しが後退したことに加え、地政学リスクの高まりや欧州政治リスクへの警戒感から、軟調な推移となりました。4月下旬にフランス大統領選の結果から欧州政治リスクが後退すると、日本株式市場は急速に持ち直す展開となり、さらに欧米金利の上昇などを背景に円安・ドル高が進んだことや、米国株式市場が底堅く推移したことなどが好感され、年初来高値を更新するなど、堅調な展開となりました。その後、米国や日本の政治情勢を巡る不透明感がくすびりましたが、米国株式市場が底堅い動きとなったことなどが支えとなり、日経平均株価は20,000円近辺で推移しました。8月に入り、北朝鮮情勢が緊迫化すると、リスク回避から日本株式市場は下落しました。
米国株式市場	2017年2月から3月中旬にかけて、米国のトランプ政権による減税策や金融規制の緩和などへの期待に加え、主要経済指標が総じて好調だったことなどを背景に、米国株式市場は上昇しました。その後、トランプ大統領の政策運営を巡る不透明感の広がりを受け、さらに4月には米軍によるシリア空爆や北朝鮮の情勢悪化などにおける地政学リスク、フランス大統領選の混迷などが強く意識されたことから、下落基調となりましたが、4月下旬には、市場予想を上回る1-3月期の米企業決算やトランプ政権の政策期待の再燃などを背景に、上昇に転じました。5月に入り、トランプ政権とロシアの関係を巡る疑惑の強まりを背景に、一時急落する場面もありましたが、その後は原油価格の持ち直しや、金融政策の正常化に対する警戒感がやや後退したことなどをを受けて上昇基調をたどり、さらに7月下旬から、4-6月期の米主要企業の相次ぐ好決算の発表により上値を伸ばし、史上最高値を更新するなど、堅調に推移しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年2月16日～2017年8月15日)

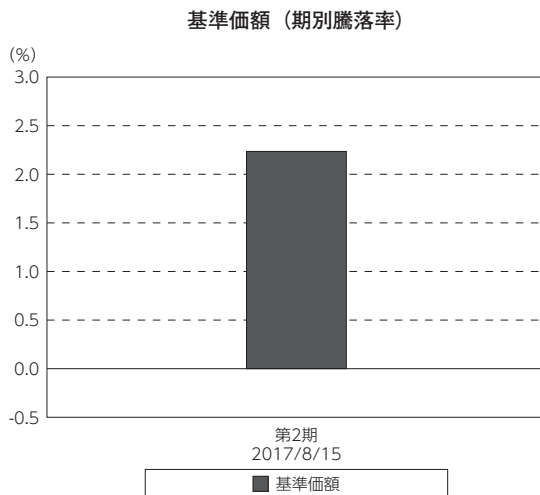
組入投資信託証券の日々の基準価額の動きなどにより基本組入比率からの乖離が生じますが、日々のリバランスや資金の追加解約に対応した売買により、できる限り当ファンドの基本組入比率を維持する運用を行いました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年2月16日～2017年8月15日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

分配金

(2017年2月16日～2017年8月15日)

分配金は、基準価額水準、市況動向等を勘案し以下のとおりといたしました。留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第2期
	2017年2月16日～ 2017年8月15日
当期分配金	30
(対基準価額比率)	0.298%
当期の収益	30
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	103

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率は異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

引き続き、組入投資信託証券を通じて、日米債券、日本株式、米国株式に分散投資を行い、信託財産の着実な成長を目指します。

実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行います。

今後とも引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

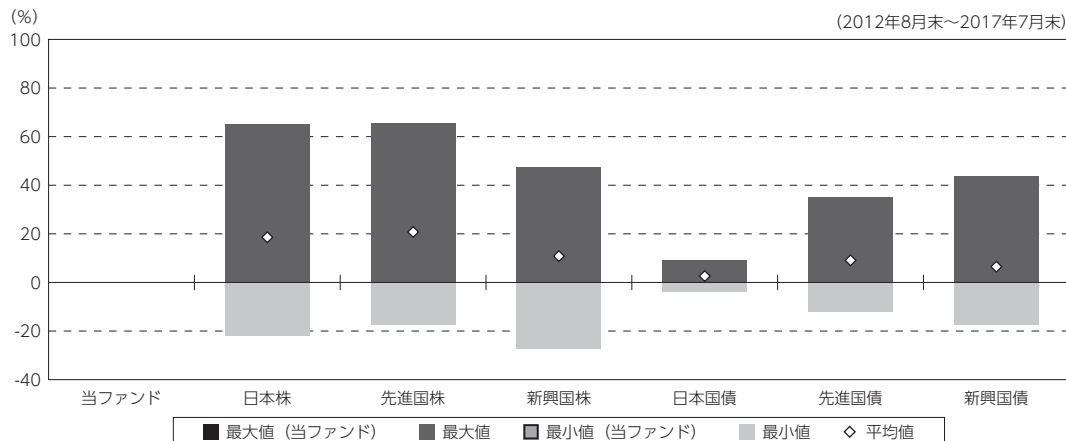
2017年5月16日付で、信託期間を無期限とする約款変更を行いました。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限 (2016年10月27日設定)	
運用方針	<p>日本と米国の債券に90%、日本株式に5%、米国株式に5%投資することを基本とします。債券運用で利子収入を獲得し、安定的な収益の確保を目指します。また、株式に投資することで中長期的な成長の享受を目指します。</p> <p>株式に投資する投資対象ファンドは、日経平均株価、ダウ・ジョーンズ工業株価平均と連動する投資成果を目指して運用を行います。</p> <p>実質組入外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。</p> <p><基本組入比率></p> <p>日米債券：90%</p> <p>日本株式：5%</p> <p>米国株式：5%</p>	
主要投資対象	J P 日米バランスファンド	野村FoFs用・日米債券ファンド (適格機関投資家専用)、野村FoFs用・日経225インデックスファンド (適格機関投資家専用)、野村FoFs用・NYダウインデックスファンド (適格機関投資家専用) を主要投資対象とします。
	野村FoFs用・日米債券ファンド (適格機関投資家専用)	日米の国債および日本国債と同等程度以上の信用格付けを有する日米の社債 (日本の社債には、財投機関債を含みます) を主要投資対象とします。
	野村FoFs用・日経225インデックスファンド (適格機関投資家専用)	日本株式を主要投資対象とします。
	野村FoFs用・NYダウインデックスファンド (適格機関投資家専用)	米国株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	<p>投資信託証券への投資割合には制限を設けません。</p> <p>株式への直接投資は行いません。</p> <p>外貨建資産への直接投資は行いません。</p> <p>デリバティブの直接利用は行いません。</p> <p>一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託者は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。</p>	
運用方法	主として、日本と米国の債券、日本と米国の株式を実質的な主要投資対象とする投資対象ファンドへの投資を通じて、安定的な収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
分配方針	<p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <p>分配対象額は、経費控除後の利子・配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額とします。</p> <p>分配金額については、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。</p> <p>留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p>	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	-	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	-	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	-	18.6	20.8	10.8	2.6	9.1	6.5

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2012年8月から2017年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドにつきましては、運用期間が1年未満であるため掲載しておりません。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

各資産クラスの指数

日本株・・・TOPIX (東証株価指数、配当込み)

先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI 国債

先進国債・・・シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベース指数を使用しております。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信頼性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円ベース) に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2017年8月15日現在)

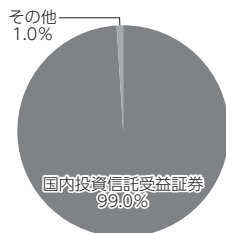
○組入上位ファンド

銘 柄 名	第2期末
	%
野村FoFs用・日米債券ファンド(適格機関投資家専用)	89.6
野村FoFs用・NYダウインデックスファンド(適格機関投資家専用)	4.7
野村FoFs用・日経225インデックスファンド(適格機関投資家専用)	4.6
組入銘柄数	3銘柄

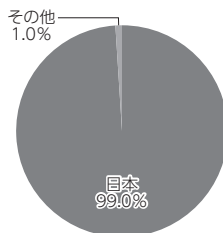
(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

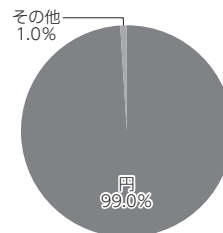
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

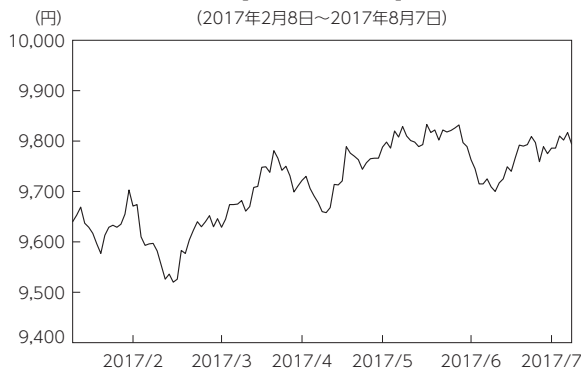
項 目	第2期末
	2017年8月15日
純資産総額	3,223,603,572円
受益権総口数	3,213,074,799口
1万円当たり基準価額	10,033円

(注) 期中における追加設定元本額は1,552,685,966円、同解約元本額は1,199,857,365円です。

組入上位ファンドの概要

野村FoFs用・日米債券ファンド（適格機関投資家専用）

【基準価額の推移】



(注) 上記グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2017年2月8日～2017年8月7日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) 信 託 報 酬	12	0.123
(投 信 会 社)	(10)	(0.107)
(販 売 会 社)	(1)	(0.005)
(受 託 会 社)	(1)	(0.011)
(b) そ の 他 費 用	2	0.023
(保 管 費 用)	(2)	(0.022)
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)
(そ の 他)	(0)	(0.000)
合 計	14	0.146

期中の平均基準価額は、9,726円です。

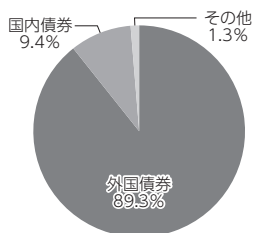
(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

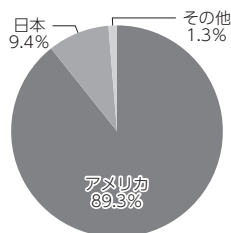
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
1 US TREASURY N/B 2% 2023/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	5.0
2 US TREASURY N/B 2.5% 2023/8/15	国債証券	米ドル	アメリカ	4.6
3 US TREASURY N/B 2% 2025/8/15	国債証券	米ドル	アメリカ	4.6
4 US TREASURY N/B 1.5% 2026/8/15	国債証券	米ドル	アメリカ	4.6
5 US TREASURY BOND 2.375% 2024/8/15	国債証券	米ドル	アメリカ	4.6
6 US TREASURY N/B 2.25% 2027/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	4.3
7 US TREASURY N/B 2.75% 2024/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	4.3
8 US TREASURY N/B 1.625% 2026/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	4.3
9 US TREASURY N/B 2% 2025/2/15	国債証券	米ドル	アメリカ	4.3
10 US TREASURY N/B 1.625% 2022/8/15	国債証券	米ドル	アメリカ	3.8
組入銘柄数		103銘柄		

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

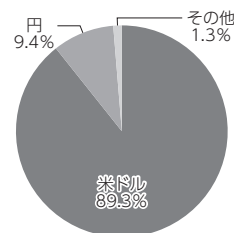
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 上記の比率は全て純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは2017年8月7日現在のものです。

野村FoFs用・NYダウインデックスファンド (適格機関投資家専用)

【基準価額の推移】

(2017年2月8日～2017年8月7日)



(注) 上記グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2017年2月8日～2017年8月7日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	10 (8) (1) (1)	0.086 (0.070) (0.005) (0.011)
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券) (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	1 (0) (0) (0)	0.005 (0.002) (0.002) (0.001)
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	0 (0) (0)	0.000 (0.000) (0.000)
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用)	15 (15) (0)	0.130 (0.129) (0.002)
合 計	26	0.221

期中の平均基準価額は、11,583円です。

(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

【組入上位ファンド】

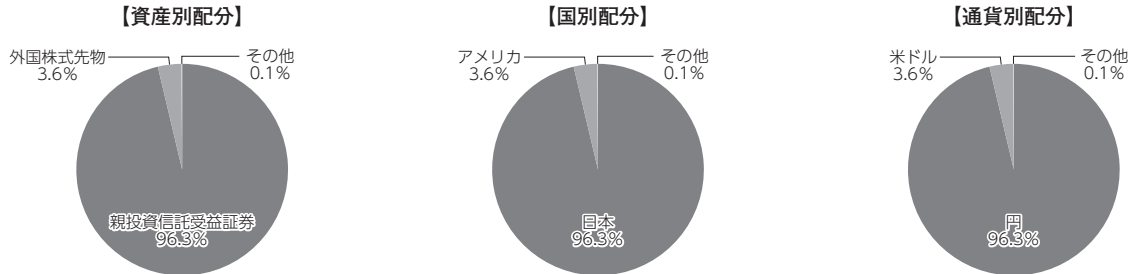
銘 柄 名	第2期末
NYダウインデックスマザーファンド	% 96.3
組入銘柄数	1銘柄

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

【組入上位10銘柄】

	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比率
1	DJIAVMN 1709	株式先物(買建)	米ドル	アメリカ	% 3.6
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
	組入銘柄数		1銘柄		

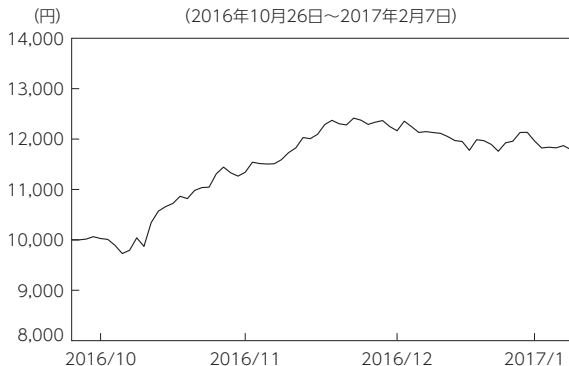
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。



- (注) 上記の比率は全て純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。
- (注) 国（地域）および国別配分は、原則として発行国（地域）もしくは投資国（地域）を表示しております。
- (注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。
- (注) 組入上位ファンド、組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは2017年8月7日現在のものです。

<ご参考> NYダウインデックスマザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2016年10月26日～2017年2月7日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券) (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	2 (2) (0) (0)	0.019 (0.018) (0.000) (0.000)
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	0 (0) (0)	0.000 (0.000) (0.000)
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	53 (52) (1)	0.470 (0.460) (0.009)
合 計	55	0.489

期中の平均基準価額は、11,374円です。

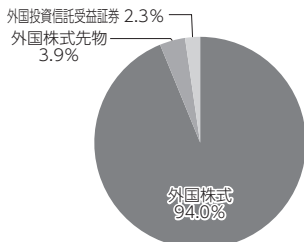
(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

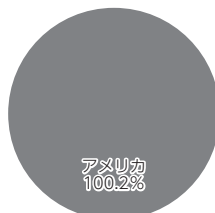
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
1	GOLDMAN SACHS GROUP	資本市場	米ドル	アメリカ	7.7%
2	INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES	情報技術サービス	米ドル	アメリカ	5.6
3	3M CORP	コングロマリット	米ドル	アメリカ	5.6
4	BOEING CO	航空宇宙・防衛	米ドル	アメリカ	5.3
5	UNITEDHEALTH GROUP INC	ヘルスケア・アドバイザー/ヘルスケア・サービス	米ドル	アメリカ	5.2
6	HOME DEPOT	専門小売り	米ドル	アメリカ	4.4
7	APPLE INC	コンピュータ・周辺機器	米ドル	アメリカ	4.2
8	MCDONALD'S CORP	ホテル・レストラン・レジャー	米ドル	アメリカ	4.0
9	DJIAVMN 1703	株式先物(買建)	米ドル	アメリカ	3.9
10	TRAVELERS COS INC/THE	保険	米ドル	アメリカ	3.8
	組入銘柄数		32銘柄		

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

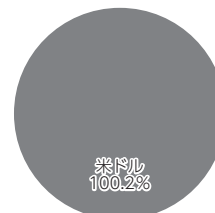
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 上記の比率は全て純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは2017年2月7日現在のものです。

野村 FoFs 用・日経 225 インデックスファンド (適格機関投資家専用)

【基準価額の推移】

(2017年2月8日～2017年8月7日)



(注) 上記グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2017年2月8日～2017年8月7日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	8 (7) (1) (1)	0.075 (0.059) (0.005) (0.011)
(b) 売買委託手数料 (株) (先物・オプション)	0 (0) (0)	0.004 (0.000) (0.004)
(c) その他費用 (監査費用) (その他)	0 (0) (0)	0.002 (0.002) (0.000)
合計	8	0.081

期中の平均基準価額は、11,296円です。

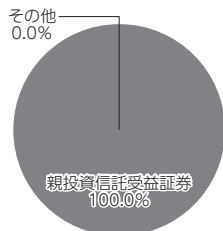
(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

【組入上位ファンド】

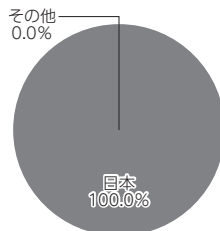
銘柄名	第2期末
ミリオン・インデックスマザーファンド	100.0%
組入銘柄数	1銘柄

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

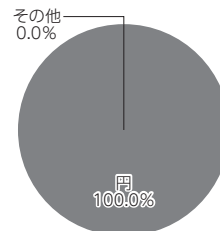
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 上記の比率は全て純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

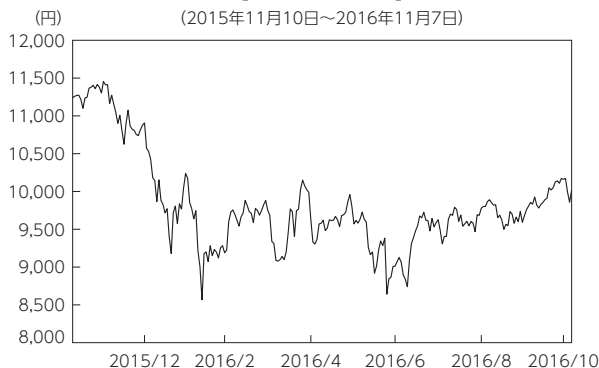
(注) 国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 組入上位ファンド、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは2017年8月7日現在のものです。

<ご参考> ミリオン・インデックスマザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年11月10日～2016年11月7日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) 売 買 委 託 手 数 料	0	0.003
(株 式)	(0)	(0.000)
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(0)	(0.003)
合 計	0	0.003
期中の平均基準価額は、9,903円です。		

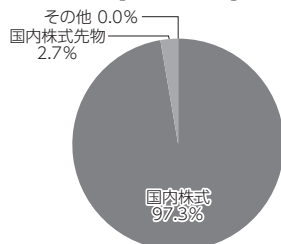
(注) 上記項目の概要等詳細につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

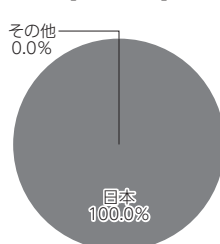
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
1	ファーストリテイリング	小売業	円	日本	8.0%
2	ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	4.1
3	ファナック	電気機器	円	日本	4.1
4	KDDI	情報・通信業	円	日本	3.9
5	日経平均225 1612	株式先物(買建)	円	日本	2.7
6	京セラ	電気機器	円	日本	2.2
7	ダイキン工業	機械	円	日本	2.2
8	東京エレクトロン	電気機器	円	日本	2.1
9	テルモ	精密機器	円	日本	1.8
10	信越化学工業	化学	円	日本	1.7
	組入銘柄数		226銘柄		

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

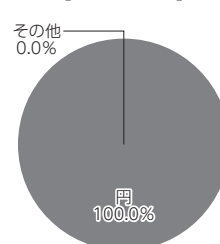
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 上記の比率は全て純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

(注) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは2016年11月7日現在のものです。